

## 平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成30年4月17日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A	180人	国語B	179人
② 数学A	178人	数学B	179人
③ 理科	180人		

#### 5 留意事項

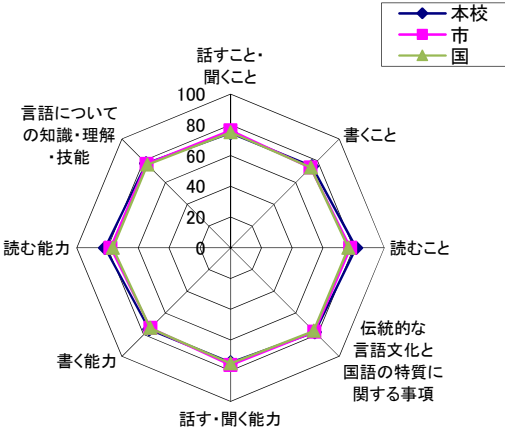
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

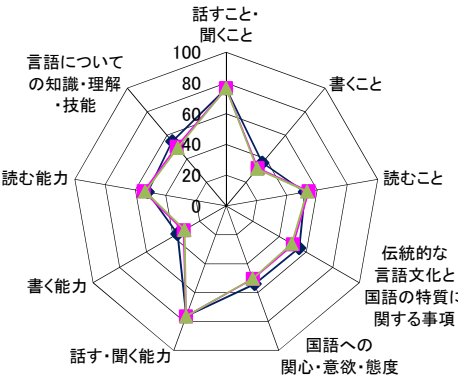
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.6	76.4	75.2
	書くこと	74.9	73.7	73.9
	読むこと	81.7	78.0	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.6	77.2	76.5
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	74.6	76.4	75.2
	書く能力	74.9	73.7	73.9
	読む能力	81.7	78.0	76.7
	言語についての知識・理解・技能	77.6	77.2	76.5



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.4	76.5	76.6
	書くこと	36.6	31.9	31.3
	読むこと	52.0	54.5	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	54.7	50.2	49.2
観点	国語への関心・意欲・態度	54.0	50.6	50.3
	話す・聞く能力	76.4	76.5	76.6
	書く能力	36.6	31.9	31.3
	読む能力	52.0	54.5	53.5
	言語についての知識・理解・技能	54.7	50.2	49.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

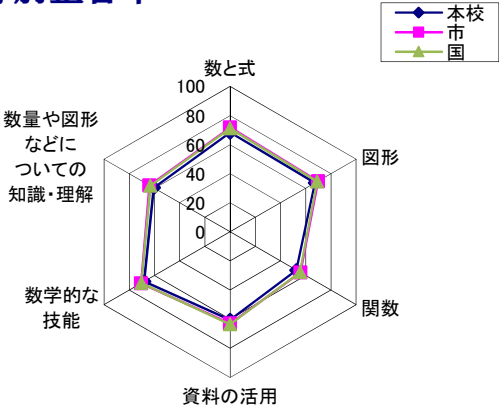
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	Aは市の平均正答率を1.6ポイント下回っている。 Bは全国平均とほぼ同じである。 ○話合いの話題や方向を捉えて的確に話すことができる。 ●全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すこと、話の論理的な構成や展開などに注意して聞いたり、話合いの話題や方向を捉えたりすることに課題がある。	・話し合いの話題や方向を的確に捉えるような授業の展開を継続していく。また、相手の反応を踏まえながら聞く機会を増やすために、自分の考えを発表する時間を増やして人の話を聞くときのポイントを伝える。 ・発表する際には、自分の考えが相手に伝わるように相手の反応や声の大きさ、話す速さなどを工夫する指導を充実させる。
書くこと	A,B共に全国、市の平均正答率を上回っている。 ○書いた文章を読み返して伝えたい内容が十分に表されているかを検討したり、段落相互の関係に注意し、読みやすくわかりやすい文章にしたりすることができる。 ●2つの意見の内容を要約し、一文で書き換えることに課題がある。	・文章の構成を工夫してわかりやすく書くことや目的の意図に応じて材料を集め、自分の考えを整理して書く指導を継続していく。 ・多くの意見を聞き、自分の考えを書いた文章を読み返し推敲させる習慣を身につけさせる指導を充実させる。
読むこと	Aは全国の平均正答率を5ポイント上回り、市の平均正答率を2.3ポイント上回っている。 ○場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することや文章の展開に即して情報を整理して内容を捉えることができる。 ●文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えることや、文章の構成や展開について自分の考えをもつことに課題がある。	・多くの文章を読み登場人物の言動や描写に注意して内容を理解させたり、文章の展開に即して情報を整理させるために接続詞などに着目させる授業を続ける。 ・文章とグラフの関係を捉えられるように、文章の構成や展開について着目させ、自分の意見をもてるように指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	Aは市、全国の平均正答率とほぼ同じ。 Bは全国を5.5ポイント、市より4.5ポイント上回っている。 ○話のあらすじを相手に的確に伝わるようにあらすじを捉えて書くことや目的に応じて文の成分の順序や照応構成を考えて適切な文を書くことができる。 ●語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある。	・今後も漢字テストを定期的に続けるとともに、学んだ語句を繰り返し学習することで、文脈に即して漢字を書くことや読む力がつくような指導の工夫をする。 ・様々な古典の作品を読ませ、文語文に慣れさせて作品の内容を理解させる。

宇都宮市立雀宮中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

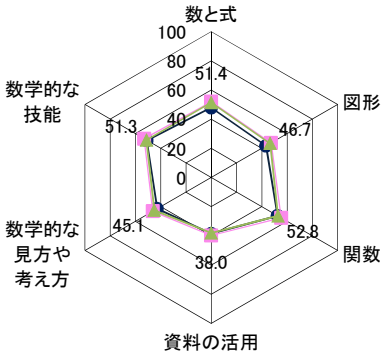
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	68.3	71.7	71.1
	図形	67.3	69.7	69.1
	関数	52.5	55.8	55.5
	資料の活用	60.4	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	68.2	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	60.6	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	47.9	52.0	51.4
	図形	43.4	47.3	46.7
	関数	52.5	55.4	52.8
	資料の活用	38.4	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	42.9	46.3	45.1
	数学的な技能	51.0	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

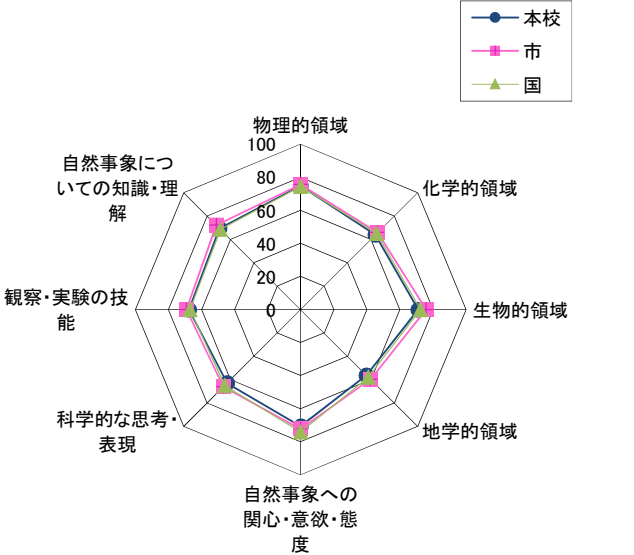
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、数学A、Bともに全国平均を下回っている。 ○文章から関係を読みとり、不等式に表すことがよくできている。 ● $2 \times (-5^2)$ など、基本的な計算で定着していないものが見られた。 ●4の倍数になることの証明を完成させる問題ができていない。	・授業内外で、繰り返し練習を行っていく。 ・授業において、証明の問題演習を増やすだけでなく、説明を書く機会を増やし、表現する力をつけていく。
図形	平均正答率は、数学A、Bともに全国平均を下回っている。 ○折り目の線の作図と角の二等分線の関係については理解できている。 ○直方体において、面に平行な辺について答えることはよくできている。 ●対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶことができない。	・合同や図形の性質についての証明が苦手な生徒が多いので、最初は穴埋め問題をやり、その後記述させるといった、段階的な指導を行っていく。 ・長文の問題に多く取り組ませ、読解力をつけていく。
関数	平均正答率は、数学Aは下回っているが、Bは同程度であった。 ○列車の運行のようすが直線で表されていることが、速さに起因していることは理解できている。 ●1次関数で、xの増加量が分かっているときのyの増加量を求めることができない生徒が多い。	・変化の割合などの、基本的な知識について正しく理解させていく。 ・表、式、グラフを関連付けた指導を心がけていく。
資料の活用	平均正答率は、数学Aは下回っているが、Bはわずかが上回っている。 ○基本的な確率は求めることができている。 ○確率を使った説明をすることができている。 ●1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶことができない生徒が多かった。	・長文の問題に多く取り組ませ、読解力をつけていく。 ・相対度数などの、基本的な語句の意味をきちんと理解させる。

宇都宮市立雀宮中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	74.8	75.7	74.4
	化学的領域	63.9	65.8	65.0
	生物的領域	71.1	75.9	72.5
	地学的領域	56.3	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	70.6	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	62.9	66.0	64.9
	観察・実験の技能	67.6	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	69.5	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	平均正答率は全国平均とほぼ同じである。 ○オームの法則を使った計算問題の正答率は全国平均を8.1ポイント上回っている。授業の中で練習問題を解く機会を多くつくるようにした成果と考えられる。 ●光の進み方に関する問題の正答率が低い。	・オームの法則については、練習問題を解く学習をこれからも継続していく。 ・光に進み方については、作図をていねいに行わせるなどポイントを押さえた指導をしていく。
化学的領域	平均正答率は全国平均を1.1ポイント下回る。 ○原子記号の表し方の問題の正答率は90%で、全国平均を6.5ポイント上回った。小テストの実施など、定着化を図る取組の成果と考えられる。 ●実験に関する記述式問題の無答率が高い。	・原子記号の表し方については、これまでの取り組みを継続していく。 ・実験方法や条件設定、結果や考察について実験レポートを作成させるなど、自分の言葉で表現させるような課題の設定を考えていく。
生物的領域	平均正答率は全国平均を1.4ポイント下回る。 ○無脊椎動物・軟体動物の体のつくりに関する問題の正解率が85%を越えている。観察の時間を十分に確保した成果と考えられる。 ●反応時間を測定する実験に関する問題の正答率が低く、全国平均を5.6ポイント下回っている。	・観察や実験の時間を十分に確保するとともに、観察のポイントや実験の意味(何をどう調べるのか)を理解させるようにする。
地学的領域	4領域中最も正答率が低く、全国平均を1.5ポイント下回る。 ○地震に関する問題では、正答率が90%を越えるものもあった。実際の地震のデータを分析させるなど、興味関心を高めるための工夫が効果的だったと考えられる。 ●気象観測に関する問題の正答率が33.9%と低く、全国平均を3.6ポイント下回った。	・実際に起こった地震のデータを教材として使用するなど、地震をより身近なものとして意識できるような取組を続けていく。 ・気象を扱う内容では、日常生活と深く結びついていることを意識できるような指導を心掛けていきたい。

宇都宮市立雀宮中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「自分にはよいところがあると思う。」に対する肯定的回答率は県より6ポイント強低い。
- 「人の役に立つ人間になりたい。」に対する肯定的回答率は、県より8ポイント、全国より14ポイント高い。
- 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。」に対する肯定的回答率は、県より6ポイント、全国より12ポイント高い。
- ※今後とも、生徒の良さをみつけ、認め、励ましていきたい。
  
- 「家で学校の宿題をしている。」に対する肯定的回答率は、県より5ポイント、全国より8ポイント高い。
- 「学校の予習・復習をしている。」に対する肯定的回答率は、県より3ポイント、全国より11ポイント高い。
- ※宿題、予習・復習への取り組みは年々改善傾向にあり、今後とも「家庭学習ノート」への取組を中心として家庭学習の充実を目指した指導を継続していきたい。
  
- 「地域や社会をよくするために考えたことがある。」に対する肯定的回答率は、県より10ポイント、全国より16ポイント高い。
- 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。」に対する肯定的回答率は、県より35ポイント、全国より38ポイント高い。
- 「テレビやインターネットのニュースを見る。」に対する肯定的回答率は、県より9ポイント、全国より6ポイント低い。
- ※地域や社会に貢献しようとする意欲や意識は高く、ボランティア活動への参加率は非常に高い。今後ともボランティア活動の機会の提供や呼びかけは、学校の特色として継続していきたい。一方、ニュースの確認率は低く、日常の学級活動や社会科の学習を通してその意義の認識を高めていきたい。
  
- 「数学の勉強は好きですか。」に対する肯定的回答率は、県より8ポイント、全国より10ポイント低い。
- 「数学の授業内容がよくわかる。」に対する肯定的回答率は、県より8ポイント、全国より6ポイント低い。
- 「数学の問題が解けないときはあきらめない。」に対する肯定的回答率は、県より6ポイント、全国より4ポイント低い。
- 「数学の授業で学習したことを生活のなかで活用できないか考える。」に対する肯定的回答率は、県より7ポイント、全国より4ポイント低い。
- 「数学の授業で公式やきまりを習うとき、根拠を理解しようとしている。」に対する肯定的回答率は、県より8ポイント、全国より4ポイント低い。
- 「今回の数学の問題について解答を説明する問題を最後まで書こうと努力した。」に対する肯定的回答率は、県より9ポイント、全国より10ポイント低い。
- ※数学科の学習については、学習過程における論理性や根拠づけなどに難があり、わからないとあきらめる傾向が見て取れる。
  
- 「数学の学習は将来、社会に出たときに役立つと思う。」に対する肯定的回答率は、県より9ポイント、全国より13ポイント高い。
- ※一方、数学科の学習の意義については高い意識を持っている。数学科の授業だけでなく、他の教科や教育活動において、説明したり、根拠をもとに話し合うなどの言語活動をできる限り推進していきたい。
  
- 「観察や実験を行うことが好き」に対する肯定的回答率は、県より8ポイント低い。
- 「理科の授業で観察や実験をもとに考察している。」に対する肯定的回答率は、県より10ポイント低い。
- 「1、2年生の授業で発表する機会では工夫して発表していたと思う。」に対する肯定的回答率は、県より15ポイント、全国より10ポイント低い。
- ※数学科同様に論理性や根拠性が弱く、他の教科や教育活動においても、説明したり根拠をもとに話し合うなどの言語活動にできる限り取り組ませていきたい。
  
- 「調査問題の解答時間は十分 国語B」に対する肯定的回答率は、県より8ポイント、全国より16ポイント低い。
- 「調査問題の解答時間は十分 数学B」に対する肯定的回答率は、全国より11ポイント低い。
- ※この項目も言語能力や論理的思考力の弱さが原因だと考えられる。

宇都宮市立雀宮中学校（第3学年）  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをまとめ、記述する指導の充実	・授業の中で、「自分の考えを書く活動」や学びあいの活動の中で言葉で人に伝える「説明」や「話し合い」などの活動を取り入れる指導方法を研究するために、授業研究会を行う。 ・授業中の学習活動で「説明」「話し合い」「書く活動」等を意識的に設けたり、振り返りの場面で、文章表記させるなど各教科で共通理解を図り、実践している。	各教科の調査結果において、記述式問題の無回答率が県や市の平均を上回る問題が各教科共にある。特に、説明したり、目的とする事象を指摘したりする問題の無回答率は25%を上回る。 生徒質問紙調査結果から、「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」に対する肯定回答率は44.5で、県よりも14.4ポイント、市よりも9.3ポイント下回る。